

20	東新会(まちづくり協力隊)		
活動名	環境と共生して暮らす私たちのまちと住まいを素敵にするプロジェクト		
活動地域	広島県庄原市東城町東城地区	活動分野	①建築デザイン、まちの景観向上、建築資産の活用等に関する活動(目標イメージの具体化/具体的なプロジェクト、その他多様な街づくりの具体化)

活動の概要は、将来にわたり地域に住み続ける事を前提にした「まちと住まい」の在り方を探るため住民と共に模索し対策方法等を検討することなどを行い、まちの将来の方向性を提案する。目的を達成するため、住民・行政・有識者・サポーターなどと、地域の自然・居住環境など様々な地域の現状を把握調査する事など、手段・手法等の知識を学ぶワークショップを開催し住民主導の環境美化整備・修景活動等々を行う事で最終的に地域の将来に向けた「まちと住まい」のマニュアルを作成することを目的とした。

1. 活動の背景と目的

広島県庄原市東城町東城地区は、風情歴史の有る町並みが多く残る街で「歩いて暮らせるまち」として生活を営んでいる。しかし、その町並みに並行して車社会の利便性と交通網の整備の名のもと、国道バイパス延伸、県道拡張工事が行われ、建物の立退きも急激に進み、近い将来、アスファルト舗装面などの増大、車による排気ガスの増加・水の道・風の通り道の変化など、自然環境の悪化が予想できる地域である。現在でも町中の空洞化、空き家の増大、住民の高齢化、人口流失等により住民コミュニティ形成の変化と、居住環境・町並み・建物景観の変化なども表れている。又、対象地域内の過半が、本年7月より住居地域から準工業地域への用途地域変更になった要素も重なり、地域内に於いて、誰もが取り組める住環境整備の手段・知識を学び実践していくことなどで、現存の古い町並みと新たに創られる町並みとが調和の出来る方向性を検討する事で、対象地域の「まちと住まいが素敵になる」将来の在り方を模索する活動を行った。 *活動対象地区:対象人口約450名、世帯数約180世帯。面積3~4ha

図1 活動対象地域図



写真1 対象地域全景



写真2 古い町並み



写真3 立ち退き対象の町並み



2. 活動内容

(1) 活動の概要と手順

主な活動概要と手順は、以下のとおりである。

- 1) 地域住民、行政、他団体との意見集約。
- 2) 地域内の自然・住環境問題を把握し地域の将来を考える為のワークショップの実施。
- 3) 快適に暮らすため居住・自然環境の把握調査と景観整備。
 - ・地域内の居住環境・自然環境の現状把握・実態調査。
 - ・地域住民対象にした住環境把握アンケート調査。
 - ・木製プランター、エアコン室外機目隠し格子など修景道具による街の環境整備。
- 4) 地域内の敷地建物の活用検討のための調査。
 - ・昭和初期建築建物群の調査及び図面化。
 - ・所有者・地域住民・アンケート調査などと専門家の意見を集約し活用方法を提案検討。
- 4) 地域の環境に配慮できる地域対応型住まいの提案づくり。
- 5) 地域の将来に向けた「まちと住まい」のマニュアルづくりの検討。
- 6) 活動報告会の開催。

活動内容	期間	進捗と概要
①ワークショップの開催	7月28日 ～ 12月末頃まで 25年1月19日 25年1月22日	第1回ワークショップ開催。 ・地域住民主体6回、合同3回、各活動別に数回開催。地域住民・各団体と合同で行うため、作業方法・範囲・分担などのワークショップを開催して意見交換を行い、活動項目ごとリンクする関係者・団体へワークショップの趣旨説明と参加協力の働きかけを行った。 ・専門家・サポーターを交え活動趣旨に基づく活動項目ごとの経過と手法などに対する意見交換と取り組み方などのワークショップを開催した。 ・各活動の成果の経過説明及び確認作業を行った。 ・マニュアルづくりの為住民とワークショップ。3回。 ・地元活動報告会開催。参加人数約30数名。 ・広島県景観会議にて活動報告。(市町村担当者対象)
②快適に暮らすため居住・自然環境の把握調査と景観整備	8月4日 ～ 12月末頃まで 10月31日	①地域の現状を把握するため、地区内の地形、建物、道路、緑、水辺等を含めた自然環境の調査を行い、住民に聞き取りも行なった。 ②地域内の居住環境の現状を知るためと、地域の将来展望を描くため地域住民にアンケート調査を行なった。(世帯数135軒回答95軒)。 ③修景道具として活動地域内の住宅にエアコン室外機用目隠し木製格子ルーバー3組作成設置。 ④地域で花畑づくりと花栽培と木製プランター60組製作設置。(季節の花の植替え) ⑤地域内クールスポット・安全安心マップ作成。

<p>③地域の防災拠点活用のための建物調査</p>	<p>8月1日～</p> <p>継続活動</p>	<p>①活用のため地区内の建物と敷地調査等行なった。</p> <p>②建物は現存図面が無いため詳細調査を行い図面化。</p> <p>③活用に向けての関係者による提案。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査による活用方法提案のまとめ。 ・所有者の意向と地域住民の思いを含む活用検討会。 ・専門家等による活用検討。 ・行政の考え方を聞くため協議を行う。 <p>④活用法についての意見集約と内容検討。</p> <p>⑤所有者と解体建物についての協議。数回</p> <p>⑥保存と活用について検討会開催。</p> <p>⑦行政・所有者と合同協議。(平成25年1月・2月)</p>
<p>④居住空間の環境に配慮した住まいの提案</p>	<p>8月4日～</p> <p>平成25年2月</p>	<p>①地域の中で住まいの環境配慮をしている所有者の考え方と将来に向けての思いの実例を聞き取り調査。</p> <p>②実例を基にして、地域の環境も配慮して新築・増改築・改修も含めて対応できる住まいの在り方の提案プランを作成。</p> <p>③対象建物にて所有者が環境配慮対策の一例を実施。</p>
<p>⑤地域の住環境に対応する「まちと住まい」のマニュアルづくり</p>	<p>9月1日～</p> <p>～</p> <p>継続活動</p>	<p>① 地域住民の聞き取りと、アンケート調査及び、地域の道路計画などを参考にして、地域の将来のまちの在り方を検討。</p> <p>② ワークショップ等で地域の将来予想図面なども作成し住民の意見集約も行いながらマニュアルの内容項目を検討し提案づくりの方向づけを検討中。</p>

(2) 活動内容

①地域の居住環境問題に取り組むワークショップの開催

・実施期間 7月28日～25年1月19日

写真4 地域住民対象ワークショップ
(地域にてまちづくり委員を25名選出)



活動地域内で道路延長・拡張の工事計画が進行中であり、それに伴い地域内に於いて近い将来居住環境の変化が発生すると思われるので、想定される居住環境の変化に対応出来る取り組みと、将来もこの地域に住み続ける事が出来るような対策を検討するため、住民と専門家・サポーターを交え、意見交換を行い、地域の現状を検証し将来に向けた取り組み手法を学んだ。

活動を進めるにあたり地域住民・専門家・サポーターとの意識の共有と手法を検討するため、住民対象ワークショップ6回と合同ワークショップを3回行い、活動テーマごと（ものづくり主体）のワークショップも数回開催した。初回は住民対象のワークショップ（7月28日）を開催し、活動の趣旨・内容説明及び作業内容と役割分担などを行ない各活動に携わる責任者を決め活動の振り分けと内容説明を行った。活動中テーマごとのワークショップを通じて数回の責任者会議を開催し活動の経過確認作業を行った。

今回も専門家・サポーターの参加協力も有り、早々にデーター・資料の整理を行い地元にて活動報告会を開催することができた。

今後は、地域の将来の在りかたの道筋をつける為・行政・専門家等も交え、意識の共有を図り活動を継続する予定である。

写真5 合同ワークショップ



写真6 専門家・サポーターワークショップ



写真7 サポーターワークショップ



写真8・9 地元活動報告会（行政・議会関係者等参加）



写真10 広島県景観会議にて活動報告（県内市町村担当者向け（出席者約50名））



現在までのワークショップ参加者は、地元活動報告会を含め住民・会員・協力者、団体・専門家、サポーター・行政・議会関係者を含め 延 300 数名であった。

②快適に暮らすため居住・自然環境の把握調査と景観整備

・実施期間 8月4日～12月末

地域の自然環境の特性を活かして快適に暮らせる住まいの有り方を検討する為、次の活動を行った。

イ) 地域独自の環境の中で培われた住まいの周辺環境及び景観や環境に対する取り組み状況などの調査と住環境の現状と将来展望を描くために地区単位で住民の意向を把握するため聞き取り等によるアンケート調査を行い・グラフ作成等のまとめ・考察を行った。

（対象 135 世帯回答 95 世帯）

●回答者の男女比率・居住年比率

男性	48名	女性	47名
----	-----	----	-----

居住年	～5年	～10年	～20年	40年～	生まれてから
	5名	16名	16名	50名	8名

アンケート項目は大項目 4、小項目 25 とした。

I、現在の住環境と住まいの環境対策について

II、地域内の住環境の変化に関すること

III、この地域に住み続けるための取り組みについて

IV、地域の中心部にヤマモトロックマシン所有の土地建物が有ります、かつてはそこで多くの方が生活していました。私たちは地域のためにこの建物を保存・活用すべきと考えています。この建物の保存・活用について皆様のご意見をお聞かせ下さい。

(質問については所有者了解済み)

V、調査に関してお気づきの点や、まちづくり・地域内の問題点に関してご意見があればご記入してください。

●自由意見の抜粋

- ・地域内が道路ばかりになる。
- ・道路工事により地域内の環境に影響が出るのが大である。
- ・アンケートを無駄にしないで地域が少しでも良くなるように取り組んで欲しい。
- ・道路整備の出来ている町、特に歩道に優しい街路等の緑、木の下で空気を吸いたい。
- ・小さいなりにスッキリとした町並みになるよう協力していきたい。
- ・建物の活用保存については公的資金中心でなく民間が出してでも考えるべき。
- ・地域内に空き家が増えてきたが地域として地域としてルールを作るべき。

●アンケートの問いの一部

問、現在のお住まいの住環境に満足されていますか。(95 世帯回答)

A そう思う	b そうなるにこしたことはない	C そうは思わない	d あまり関心がない
20	48	18	9

●アンケートまとめ考察 (一部抜粋)

I 現在の住環境と住まいの環境対策について

- ・生活主体住居は木造の住まいが多く、住環境には余り問題も無く過ごし生活するにあたり個々の問いでも環境問題も考えられ、自然のエネルギー利活用なども昔からの知恵も含めて概ね満足されていると推察された。

II 地域内の住環境の変化に関すること

- ・道路整備による立ち退き対象が多いが、立ち退き対象者はこの地域又は近辺で今後も住まいを持ち、住み続けていきたいと望まれている。又、対象者と対象外の人も道路整備により現在の環境より悪い影響が出てくると回答が多く、それに関係する対策が必要と思っている人が過半であった。

III この地域に住み続けるための取り組みについて

- ・地域の環境が以前より悪くなったと回答した人が多くいたが、将来もこの地域で暮らしたいと思われている人も多くいた。

上記を含めアンケートをまとめた結果で推察すれば、特に高齢者の皆さんは地域で暮らし続けることを望んでおられるが、若年層になるにつれ地域における将来展望が描けていないように推察できる。しかし、地域で様々な活動の取り組みを継続していくことにより少しずつでも関心を持つようになるのではないかと思われた。

ロ) 地域内でも活用できるように、夏場を外で快適に過ごせるクールスポットの創出

地域において、一昔前までは、住民も夏場、屋外にて涼を求めた場所が存在すると思われたので、ワークショップ等で思いを提供していただき、地域住民と共に現地調査と聞き取りなどを行い、クールスポットマップを作成した。

図2 クールスポットマップ



写真11 地域内の神社境内内公園



写真12 川辺の桜並木



ハ) 地域内で安全安心して暮らすため地域内の危険箇所の抽出

住民対象のアンケート調査、ワークショップでも意見提案があった危険箇所を住民の立会説明の元、点検調査し危険箇所を選定することで、「安心と安全のまちを目指す」マップを作成した。危険箇所の解消の可能性を求めめるため行政にも説明し提供した。

図3 安心と安全のまちを目指すマップ



写真13 立ち退き跡地



写真14 立ち退き跡地詳細



ニ) 地域の環境整備と美化を行うため木製プランター製作と花畑・花づくり。

花づくりは地元住民の畑を借りて住民が四季の花を植え育てることとした。木製プランターについては、環境に配慮出来るように機能とデザインを統一するため、間伐材を活用したサンプルを数点作成し、地域の老人大学の皆さんを中心に製作活動を行い、産業廃棄物となるプラスチックのプランターは使用しないプランターを 60 組製作設置した。

維持管理については、地域の人たちが四季を通じて、花の植え替え等を含む管理をして頂ける運びになった。(延参加人数 100 数人)

写真 15 間伐材選別



写真 16 加工



写真 17 サンプル作成



写真 18 完成品



写真 19 花の植栽



写真 20 プランターの設置



ホ) 町並み景観を配慮する取り組みについて、地域住民の意向を聞き、居住環境の景観・美化整備の一環として、エアコン室外機に対して木製目隠し格子を製作することにした。設置箇所については、住民と協議の上、場所を選定して道路沿いの目に付く場所に据えられているエアコン室外機に対して③組設置した。

(使用材料 杉・桧材。可動式木製ルーバー取り付け)

写真 21 試作品



写真 22 完成品



写真 23 ①設置状況



写真 24 ②設置状況



写真 25 ②設置状況



写真 26 ③設置状況



③地域の防災拠点活用のための建物調査

・実施期間 8月1日～継続中

写真 27 活用対象敷地建物群



写真 28 活用対象建物の一部



活動地域内の中心部に在し、過去、地元企業の、一つの町としてのコミュニティ機能を形成していた昭和初期の敷地と建物群の詳細調査を所有者の立会い説明の下、会員・サポーターとで行い、敷地・建物群図面などが現存して無い敷地・建物図面を作成した。

活動当初の趣旨としては地域に自主防災組織が設立されたのを期に、地域の防災拠点等として活用できないかと所有者にも思いを伝え検討することを想定していたが、今活動中、住民アンケート調査などの提案や、ワークショップを通じた地域住民の直接の提案と、専門家・サポーターより複数の他目的の活用提案などあったのも参考にして、再度所有者の意向を確認して所有者・地域住民・専門家・行政などの意見も取り入れることで活用方法の提案を整理し、事例ごとに、諸課題・法定解釈等の課題を整理検討しながら進めていく事とした。

又、平成 25 年 2 月現時点で、建築した大工さんの子孫の協力もあり、昭和初期建築時の、青焼き設計図も手に入れる事もでき、活用と保存等に向けて行政の参画も受け、庄原市・所有者・会員との間で一緒に助成・補助制度のメニューを探すなど前向きな協議を続けている。

写真 29 所有者による説明



写真 30 建物内部調査



写真 31 建物内にて資料整理



イ) 提案事例として

ワークショップ・住民アンケート・専門家等の提案事例

【住民アンケート等による提案】

- ・地域の災害時の一時退避場所。
- ・道路立ち退き用の住宅地。
- ・地区に集会所が無いので、冠婚葬祭でも利用できる建物。
- ・レトロな雰囲気を残す文化的施設、美術館。
- ・クラシック音楽の流れるレストラン。
- ・高齢者が集える場所。(使用できるなら庭の草刈など維持管理をボランティアで行う)

【建築士等専門家の提案】

- ・鉄の芸術家・篠原勝之氏の主宰するアートレジデンスと企業博物館。
- ・複数の若手作家等が泊まり込み（低料金有料）造形創作活動行う合宿所。
- ・家族寮をヤマモトロックマシン博物館
- ・講義講堂をレストランカフェ。
- ・単身者用寮を若手作家宿泊施設。
- ・地域の福祉施設。
- ・ママ友やいろんな年代の交流の場（親子物づくり・体験施設。クールシェアの場）
- ・アーティストや地元の人々の趣味の創作アトリエや練習場や発表の場。
- ・登録文化財の認定を受け保存して活用する。

ロ) 問題点として

【住民アンケート等の意見】

- ・住民にしわ寄せが来るようなことはしないで欲しい。
- ・多額な寄付とかが発生すると困る。費用は誰が捻出するのか。
- ・国・県・市等から補助金はあるのか。
- ・所有者が土地建物などは提供してくれるのか。

【専門家等の意見】

- ・インフラ整備を含め、防災拠点としては難しい。建物の耐震診断が必要。
- ・建物の活用にあたり、現行の建築基準法及び消防法のクリアが課題である。
- ・改修等を行う場合の資金の問題をどうするのか行政の補助金に頼るのでなく民間の資金を募る可能性を探る。等々

図4 対象敷地の配置図面



図5 対象建物の立面図の一部



図6 対象建物の平面図の一部

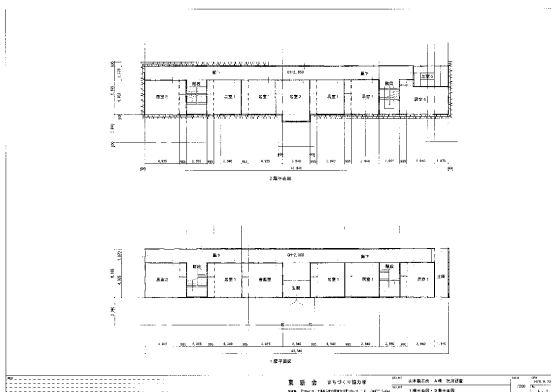
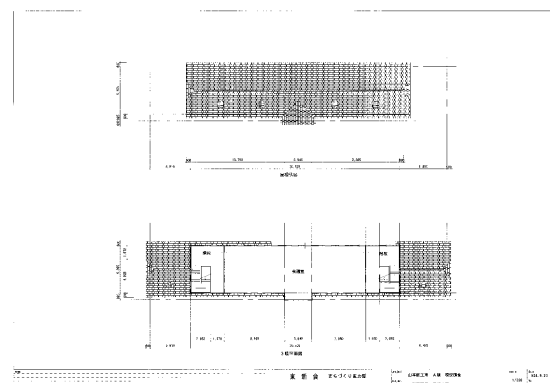


図7 対象建物の平面図の一部



④居住空間の環境に配慮した住まいの提案

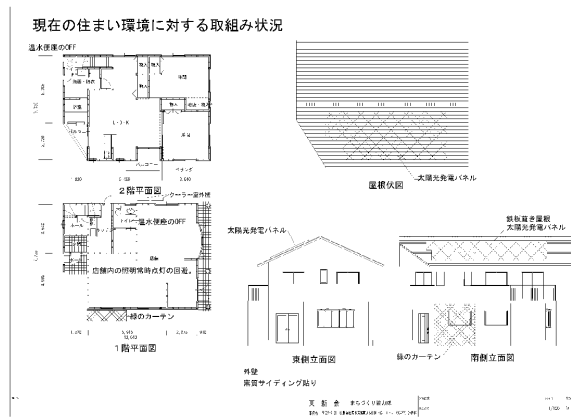
・実施期間 8月4日～10月31日

地域の四季の自然と共生し、其々の住まい手の居住形態に対応出来る地域型住宅の実現を目指して地域の自然エネルギーなどの活用や景観に配慮した住まいづくりを検討するため、地域内で環境に配慮した取り組みをしている事例の住まいの調査を行い図面化した。当事者の考え方も聞き取り参考とした事項として・エコで安心生活（安心が第一）化石燃料に変わる代外エネルギーの活用・創電と節約で家計が楽（毎日気になります）太陽光発電パネルの導入による売電・地元木材活用で地域活性化（もったいない）地元木材活用による雇用利益循環・快適な室内に（想定外でした）夏季時太陽光発電パネル設置による屋根焼けの軽減による室内温度の低下・今までの考え方を变える（最初は不安）常活動部屋の時間帯点灯による節電。このような事例の取り組み内容とLCCM住宅の考え方を比較してみたが、考え方の大半を取り入れていた。これらのことも参考にして、住まい手に無理が無く実現可能な住環境に配慮出来る提案プランを作成することとした。

写真 32 環境に配慮した外観写真



図 8 現在の取り組み状況図面



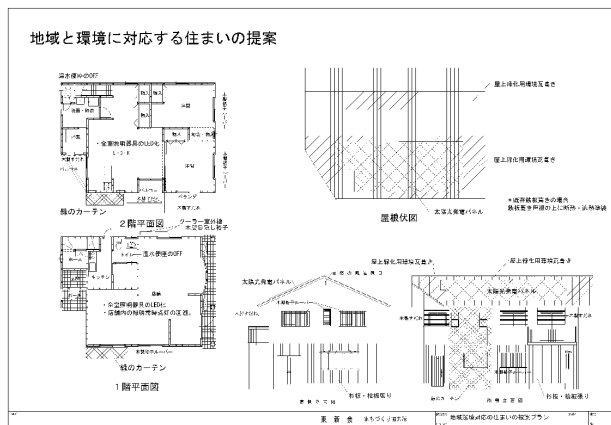
* 現在の取り組み

- ・太陽光パネル設置・緑のカーテン（ゴーヤ栽培）・LED電球への交換。
- ・町内自動車からバイク使用・トイレ温水温便座のOFF・省エネ冷蔵庫への買替。
- ・電気毛布から湯たんぽへ・二部屋同時点灯の禁止・店舗内常時点灯の回避。
- ・二重ガラス（マルチガラス）の防音・断熱。

図 9 将来に向けて取り組むプラン

* 将来に向けての取り組み

- ・全室照明のLED電球使用。
- ・太陽光発電パネルの増設。
- ・家の廻りの緑化。
- ・薪ストーブの取り入れ。
（ペレットストーブ）
- ・オール電化設備機器の導入。
- ・屋根面の遮熱。
- ・節水・節電の継続。



⑤地域の住環境に対応する「まちと住まい」のマニュアルづくり

過去の積み重ねた活動と、前述の活動などと住民の意識アンケート調査等を踏まえて活動の一つずつの意味と成果と行政の道路計画等々地域内の知りえた環境の現状などを集約整理し、地域の住環境の実態も把握・理解して地域住民と関係者が知識の共有をすることが出来つつある状況の中で活動内容のデータ化、将来計画の地域地図を作成等する事が出来た。

現時点では、地域の将来に向けた「まちと住まい」の在り方及び進め方のマニュアル項目づくりを進めている最中であり早々に住民と検討できる提案を行うつもりでいる。

最終的には、地域住民が地域の豊かな自然環境と景観を次世代に引き継ぎ、自然と共生しながら「低炭素のまち」として暮らしていくため、住民、行政、他団体と共に地域資源（自然・人工構物・建物・景観）を活用することも織込み、地域で共有でき、公共の精神も持つ「まちと住まいの」のマニュアルづくりを作成する。

写真 33 風情歴史ある家・町並み



写真 34 立ち退き予定地の家・町並み



写真 35 改修された住まいの外観



3. 事後評価

(1) 事業の効果

活動の効果としては、新たに、地域住民の地域内の環境全般に対するの思いを知ることができた。過去の活動を含めて、活動の内容が地域住民に理解されている事も推察でき、活動についての理解が少しずつ深まり意見や提案が積極的に提案されるようになったと思われた。又、地域をあげての協力が頂けた事が一番の効果であり、今回、将来の地域を創造することについて数々の調査なども行う事もできた。効果としては、対象地区の住民に対して会員と地区世話役の方と聞き取りによるアンケート調査を行い配布回収したが、私たちの当初の思い以上に住民が関心を持たれているのを調査により感じる事が出来た。

組織面の効果としては、会の活動が認識されているので住民との連携がスムーズになり、新たな活動項目も増えた事に対しても、引き続き専門家・サポーター制度があったことにより活動の中において専門的な内容に踏み込めた事などで、参考になる意見手法が聴けたことは、私たちも地域住民の皆さんも、今後の地域活動に向けて大きなプラス材料となった。

今回の活動は、ワークショップを通じて、まちの将来を創造する取り組みが主体となる活動であったが、今年度も引き続き住民及関係団体の協力と、一層の専門家・サポーター・行政の協力も有り活動をスムーズに進める事が出来た。

今までの活動成果の一例として、地域住民とともに進める活動「町並み景観づくり活動」がある。その活動に対して、平成 24 年 11 月広島県庁より活動取り組み事例報告発表の要請があり、平成 25 年 1 月広島県庁主催広島県景観会議（県内全市町村景観行政担当者参加）の場にて活動報告発表の機会を与えられたことは、今までの活動の取り組みの評価が表れたと思っている。この地域住民と協同の取り組み活動の手法が、県内各市町村に対してモデル地域の参考として拡がれば波及効果になると考えている。

(2) 目的の達成状況

今活動の主目的は、地域の将来を創造するための「まちと住まい」のマニュアルづくりを行うことであった。目的を達成するための手段として・ワークショップ開催・住民意識のアンケート調査・防災拠点活用及び景観保存としての建物群調査・地域環境調査・木製プランター等修景道具による住環境整備等々数項目の活動を行った。個別の活動達成状況としては、住民の意識アンケート調査に於いては、当初目標の100世帯に対し、関係地域内の135世帯に配布し95世帯回答回収することができた。木製プランター60組製作設置・修景道具等による住環境整備の目的に対しては、地元木材を活用して形状を変えた木製プランター60組製作設置することができ、住民が将来に渡り年間を通じて花を育て木製プランターの維持管理を行うこととなっている。又、町並みの修景の一環として試考錯誤の上、木製の格子ルーバー格子を修景道具として3組作成し、町並みの中にある外部エアコン室外機に対して3箇所取り付けすることもできた。次に防災拠点活用及び景観保存としての建物群調査については、基礎資料として木造3階建てを含む建物群の図面化を試み、サポーターの協力もあり、敷地内の全て（5棟）の建物調査と図面化ができた、それを基にして、地域住民、ワークショップでの意見、アンケート調査、所有者、行政の思いなども参考にして、活用と保存に向けて関係者にて協議を継続している。上記の活動を含めたワークショップ参加人数は、地域住民、関係者、協力者、各種団体、専門家、サポーター、行政、議会関係者などを含め延300数名の参加があり、当初の目標100名程度より多くの参加があった。さらに、前年に引き続き、専門家・サポーターの協力と適切なアドバイスもあり、今活動の要点が掴める事が出来たが、残念ながら主目的の達成までは進めなかった。しかし、これらのことを踏まえても私達と地域住民の数年来に渡る活動の積み重ねにより主目的の肉付けが整えられたと思っている。本助成活動の終了が近づく段で、今回調査した建物群の活用と保存の実現に向けて、行政の参画・協力も取り付けられる状況に展開し始めるなど良い相乗効果が表れてきたと思う。

4. 今後の課題

住民は、地域に愛着を持っているが、バイパス道路延伸による立ち退き・移転、空洞化を現実として目のあたりにしている状況も有り、今回、町並みの中での住環境の変化にて生じる問題を解消するため、アンケート調査・建物調査などを行い、将来の町のあり方を模索するため、さまざまな活動を行ったが、日々の活動は高齢者の人が中心で若い人の参加が少なすぎた。課題である地域の「まちと住まい」の将来展望を描く為には、若い人の（後継者等）の積極的な参加協力が必要であり、又、行政の強力な支援も仰ぐ必要もあるが、やはり活動の資金面をどう考えるのが大きな課題である。

5. 今後の展開

私たちの活動としては、地域を知り把握することで住環境問題にも取り組むことと、様々な地域資源を活用し、尚且つ地域の事情・景観にも配慮して修景道具を作成し町並みを形成する事等で町並み景観の維持と保存である。

今後の展開としては、住民と協同のワークショップを通じて、古い町並みと立ち退き後の町並みの融合の検討を行い、地域事情に沿った「まちと住まい」将来創造プランづくりを住民・行政とともに進めていき、新たな町並み形成のモデルになる様取り組みを継続する。

又、今までの活動を振り返り、住民が興味と関心を持ち自主的に行えるまちづくり活動を「点火する」事も大事なことと感じている。

例として、今活動に於いて、住民・所有者と共に活用と保存に向けて調査した昭和初期建

築の木造3階建てを含む未活用建物群については、行政の参画と協力も見え始め、前向きに展開する方向性が整いつつある。これも今活動の中で「点火した」事が大きく作用している。

今後も引き続き、私たちは地域住民と共に将来のまちを創造する趣旨のもとお互い知恵と知識の提供を行い知識も深め、さらに見聞を広めることを行うことで、住民が主役の活動で地域の自立・住民コミュニティの熟成と次世代の担い手を発掘することも併せて行えるよう、私たちは様々な機会にて活動を発信し行く。

■団体概要・担当者名			
団体設立時期	平成3年1月		
代表者名	檜原 節男		
連絡先担当者名	檜原 節男		
連絡先	住所	〒729-5121	広島県庄原市東城町川東 1161-18
	電話	08477-2-4544	
ホームページ	http://ww41.tiki.ne.jp/~kuukan-ssk/		